

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル） 申請様式

① 学校名	新潟経営大学		
② 大学等の設置者	学校法人加茂暁星学園	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	新潟県加茂市希望ヶ丘 2 9 0 9 番地 2		
⑤ 申請するプログラム名称	NUMデータサイエンス教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和 3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	33	人
	(非常勤)	20	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		5	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	170	人	
⑪ 全学部・学科の学生数（学年別）	総数	594	人
1 年次	126	人	2 年次
			118
3 年次	166	人	4 年次
			184
5 年次		人	6 年次
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	杉浦 善次郎	(役職名)	学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）			
	教務委員会		
(責任者名)	伊部 泰弘	(役職名)	教務委員長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）			
	総務・企画委員会		
(責任者名)	大澤 弘幸	(役職名)	総務・企画委員長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	新潟経営大学・総務課	担当者名	岡田大介
E-mail	soumu@duck.niigataum.ac.jp	電話番号	0256-53-3000

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

プログラムを構成する4科目を取得すること。

「人工知能論」、「情報リテラシー」、「データサイエンス入門」、「コンピュータリテラシー入門」

③現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
人工知能論	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
人工知能論	2	○	全学開講	○	○						
情報リテラシー	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
人工知能論	2	○	全学開講	○	○						
データサイエンス入門	1	○	全学開講	○							

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、A I 社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
人工知能論	2	○	全学開講	○	○						
情報リテラシー	2	○	全学開講	○							

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・A I の基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンス入門	1	○	全学開講	○	○								
コンピュータリテラシー入門	1	○	全学開講			○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
コンピュータリテラシー入門	4 - 2アルゴリズム基礎		
データサイエンス入門	4 - 4時系列データ解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「人工知能論」(11回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「人工知能論」(3回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「人工知能論」(8回目)
	1-6	・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「人工知能論」(14回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「人工知能論」(10回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報リテラシー」(1回目) ・1次データ、2次データ、データのメタ化「情報リテラシー」(4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「人工知能論」(7回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報リテラシー」(1回目)、「人工知能論」(3回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「人工知能論」(1回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「人工知能論」(7回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データサイエンス入門」(3回目) ・データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データサイエンス入門」(4回目) ・非構造化データ処理：言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「人工知能論」(9回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「人工知能論」(10回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「人工知能論」(11回目)
	1-5	・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「人工知能論」(15回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「人工知能論」(4回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「人工知能論」(4回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「情報リテラシー」(3回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「情報リテラシー」(13回目、14回目)
	3-2	・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性「人工知能論」(5回目) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「人工知能論」(6回目、11回目、12回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「人工知能論」(6回目、11回目、12回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での事例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「データサイエンス入門」(1回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データサイエンス入門」(1回目) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データサイエンス入門」(14回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データサイエンス入門」(2回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「コンピュータリテラシー入門」(4回目) ・データの並び替え、ランキング「コンピュータリテラシー入門」(4回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・人工知能の特性を正しく理解して修得し、人間の社会的活動に適用できる ・データサイエンスの基本を理解する ・データ分析の要領を身に付ける
--

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

https://www.niigataum.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/fd5ac0b34ea23ad80bb7aa0728f2e9db.pdf

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

2021

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学 定員	収容 定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数 合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経営情報学部・経営情報学科	120	510	72	64											72	14%
経営情報学部・スポーツマネジメント学科	50	210	10	6											10	5%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合 計	170	720	82	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	82	11%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

新潟経営大学教務委員会規程

② 体制の目的

学生の教育に関するカリキュラムおよび教育全般の管理・運営を行い、よりよい教育環境をつくることを目的として、新潟経営大学教務委員会を置いている。本委員会は、数理・データサイエンス・AI教育プログラム等の教育プログラムなど、教育課程に関する事項を審議し、教育課程を全学的に普及、周知させるなど、その他教務に必要な業務全般を所管している。

③ 具体的な構成員

委員長（教務部長） 経営情報学部教授 伊部 泰弘
 副委員長 経営情報学部教授 齊藤 光俊
 委員 経営情報学部准教授 後藤 泰則
 委員（経営情報学部 学部長） 経営情報学部教授 大澤 弘幸
 委員 経営情報学部講師 落合 純
 委員 経営情報学部講師 鈴木 翔
 委員（学務課員 係長） 大野 智大
 委員（学務課員） 高山 睦紀

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	11%	令和4年度予定	24%	令和5年度予定	37%
令和6年度予定	51%	令和7年度予定	54%	収容定員（名）	720
具体的な計画					
目標を実現するために、経営情報学部で従来より必修としていた情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門に加え、令和2年度より人工知能論を開講して経営情報学科において必修化、令和3年度よりデータサイエンス入門を開講して経営情報学科およびスポーツマネジメント学科で必修化することで、年次進行で数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベル修得者を増加させてきている。2021年以降入学者向けの現行カリキュラムでは、既に、情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門が全学必修となっており、人工知能論の必修の経営情報学科以外からの履修者も増加傾向であることから、学生全体に占める数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの修得者・履修率は順調に増加している。今後は、人工知能論の全学生必修化を検討し、卒業生に占める数理・データサイエンス・AI教育リテラシーレベルの修得者の割合を90%以上にすることを検討していく。また、大学ホームページにデータサイエンス教育を紹介して学内外に数理・データサイエンス・AI教育をアピールしており、さらなる計画として、令和5年度入学者向け大学パンフレットに、データサイエンス系科目の紹介を掲載予定である。					

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

2021年以降入学者向けの現行カリキュラムでは、既に、情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門が全学必修となっており、1年次から履修可能な人工知能論をはじめとするすべてのデータサイエンス分野の科目群が学科を問わず全学生が受講可能である。また、データサイエンス分野の専門科目を学ぶために必要な基礎的科目が明確となり、段階的に無理なく修得できるようユニット制を採用・学生周知している。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

大学ホームページにデータサイエンス教育を紹介して学内外に数理・データサイエンス・AI教育をアピールしており、さらなる計画として、令和5年度入学者向け大学パンフレットに、データサイエンス系科目の紹介を掲載予定である。また、コンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門の内容に関連する資格試験として日商PC検定データ活用2級および3級は学内でのIBT（インターネットベースドテスト）受験が可能であり、その受験は学内Webポータル等を通して広く学生に周知している。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本教育プログラムの科目であるコンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門について

は必修とするだけでなく、複数教員担当科目とすることで、必履修者数に見合った教員数でサポート体制を構築している。具体的には、当該委員会により、教員が作成するシラバスの妥当性をチェックし、改善・指導するなどの業務も行われている。また、本学におけるIBT（インターネットベースドテスト）の実施や資格取得の指導、奨励、各種学習センターの管理・運営などの教育プログラムや修学環境を改善・進化させる役割を担っている。以上のように、本委員会は最低限必要な教務のみならず、教育の質を担保し、数理・データサイエンス・AI教育プログラムなどの教育プログラムを改善・進化させるために必要な機能を有している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

全ての学生が、スマートフォンやパソコンで閲覧可能な大学webポータルシステムから、連絡を受け取ったり質問をしたりすることができる。また授業時間外でも課題を提出し、添削を受けることもできる。さらにすべての学生には、教育機関向けのGoogleアカウントを発行しており、Googleアカウントからログインするシステムからオンラインアプリを通して、授業時間外でも課題を提出し、添削を受けることもできる。これらの機能は本教育プログラムについての履修科目のみではなく、すべての科目に共通である。学生は成績等に関しても、授業時間以外に不明な点などをシステムを通じて確認することができ、質問は各教科担当の教員を通じて返答する体制を整備している。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	NUMデータサイエンス教育プログラムの中心科目である「人工知能論」は、令和2年度（2020年度）に開講された。また、令和3年度（2021年度）からは「コンピュータリテラシー入門」「データサイエンス入門」を開講した。情報リテラシーについては平成29年度（2017年度）以前より開講している。 該当科目をすべて履修した者が本プログラムの履修者数であり、2021年度の履修状況および修了状況は以下のようになる。 経営情報学科：履修者数 72名 修了者数 64名（2022年度現在） スポーツマネジメント学科：履修者数 10名 修了者数 6名（2022年度現在）
学修成果	「人工知能論」については、期末評価の前にプレテストを行うことで、学生の学修成果の確保に努めている。「データサイエンス入門」については、各教員ごとに工夫を凝らしており、例えば教科書の内容をより簡潔にまとめたレジュメを配布するなどして、学生の理解度向上に努めている。 こうした特長により、2021年度のプログラム適用科目の理解度は、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」とする回答が、人工知能論は80%、データサイエンス入門が80%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が86%と、いずれも高い割合を示した。 また、2021年度のプログラム適用科目の総合評価（満足度と見なすことが可能）についても、「よい」「どちらかといえばよい」とする回答が人工知能論は90%、データサイエンス入門が70%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が84%と、いずれも高い割合を示した。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	毎年、学期末の時期に授業評価アンケートを行っており、2021年度のプログラム適用科目の理解度は、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」とする回答が、人工知能論は80%、データサイエンス入門が80%、情報リテラシーが100%、コンピュータリテラシー入門が86%と、いずれも高い割合を示した。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	現時点において、各授業の推奨度を直接測定する質問は実施されていないが、比較的高い総合評価（満足度）からある程度の推奨度は得られるものと考えられる。 このため、授業評価アンケートに授業の推奨度を尋ねる質問項目を盛り込むなどの対策を検討している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	経営情報学部で従来より必修としていた情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門に加え、令和2年度より人工知能論を開講して経営情報学科において必修化、令和3年度よりデータサイエンス入門を開講して経営情報学科およびスポーツマネジメント学科で必修化してきた。令和3年度以降入学者向けの現行カリキュラムでは、既に、情報リテラシー、コンピュータリテラシー入門、データサイエンス入門は全学必修であり、人工知能論においても必修ではない学科の履修者も増加傾向であることから、学生全体に占める数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの修得者・履修率は順調に増加している。今後は、人工知能論の全学生必修化を検討し、卒業生に占める数理・データサイエンス・AI教育リテラシーレベルの修得者の割合を90%以上にすることを検討していく。また、さらなる計画として、令和5年度入学者向け大学パンフレットに、データサイエンス系科目の紹介を掲載予定である。
学外からの視点	

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和3年度入学者に適用され、計70名の修了者が出ているが、いずれも現在2年生であり卒業はしていない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムを含めた学部正規の教育課程の編成にあたり、包括連携協定等を締結している地方自治体や複数の地元産業界等から意見を聴取している。 さらに、毎年行っている企業アンケートの項目に加えるなどの対応も検討している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	世界的な研究または研究者や、内閣府による調査報告だけでなく、新潟県の事例などを加えることで学生により身近に感じてもらうなどして、興味を持ってもらえるよう心がけている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業内容が学生にとって理解しやすいような工夫に取り組んでおり、内容・水準の維持に努めている。

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.niigatau.ac.jp/wp-content/uploads/2022/05/c0ea5906775ce92e073042571af3a663.pdf>

コンピュータリテラシー入門

更新日：2021/04/07 16:52:51

開講年度	2021	学期	前期	シバコード	210010		
学年		曜日/時限	－	単位数	1.0	科目コード	210010
担当教員	横山 泰, 姜 興起, 齊藤 光俊, 東川 輝久, 落合 純						
学部/学科	大学 経営情報学部 経営情報学科						
備考							

授業形態

講義と実習

カリキュラム適用年度

1年

事前に受講が望ましい科目等

コンピュータの操作ができること

事後に受講が望ましい科目等

授業のテーマ

ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの理解と操作の実習

授業の目的

- (1)タッチタイピング、ID・パスワードの管理、メール送受信、文書の入力、ビジネス文書の基礎知識の理解と作成ができるよう習得し、実習する。
- (2)プレゼン資料作成ソフトウェアを使って、スライドが作成できるよう学習し、実習する。
- (3)表計算ソフトウェアを使って、基本的な操作の理解、基本的な関数の利用、グラフの作成などができるよう学習し、実習する。

授業の到達目標

1	ビジネス文書の基礎知識を習得し、基本的文書の作成ができる。
2	表計算ソフトウェアの操作を習得し、関数を使った計算やグラフ作成ができる。
3	プレゼンテーションソフトの操作を習得し、スライド作成ができるようになる。
4	タッチタイピングレベル判定「C」以上になる。

授業の概要・内容（200字程度）

ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方を講義と実習を交えた形で学ぶ。コンピュータの基本的操作、コンピュータを使用する上で最低限必要なセキュリティの知識を身に付ける。キーボードの入力を熟練する。

授業の方法

講義とPC上の実習を交えた形で授業を行う。

授業時間外学修（予習・復習等）

タイピングの練習や、課題等を行ってもらう場合がある。

評価の方法・基準（評価割合）

総合評価（目安として課題80%、授業への参加態度20%）

特記事項・資格認定について

日商PC検定文書作成3級とデータ活用3級の取得によって単位認定が可能である。

履修上の注意・留意事項

遅刻や欠席をしないこと。

授業計画（テーマと内容等）

1	ガイダンスと準備 情報処理室利用の案内、ID・パスワードの確認、メールアドレスの確認、PCアクセスの基本、CCPの説明
2	WordやExcelの基本 WordやExcelの基礎知識、データの入力、文章の作成
3	Word1 文章の作成、ページ設定と文章の印刷、表の作成
4	Word2 文章の編集
5	Word3 図や画像の挿入
6	Word4 長文作成のサポート

7	Excel1 データの入力・編集、表の作成
8	Excel2 表の印刷、数式の使用、相対参照と絶対参照
9	Excel3
10	Excel4 グラフと図形
11	Excel5 データベース、ピボットテーブル
12	PowerPoint1 PowerPointの基礎知識、プレゼンテーションの作成
13	PowerPoint2 図やオブジェクト・グラフ・表の挿入、特殊効果の設定
14	Officの総合演習 1 課題の提示、レポートとプレゼンテーションの作成
15	Officの総合演習 2 PowerPointを用いたレポートの報告

テキスト 1（書名・著者名・出版社名）

杉本くみ子・大澤栄子，30時間アカデミック Office2016，実教出版株式会社

テキスト 2（書名・著者名・出版社名）**テキスト 3（書名・著者名・出版社名）****参考書・参考資料・参考URL等****備考****連絡先**

kyo@duck.niigataum.ac.jp

科目に関する実務経験について**アクティブラーニング形式の有無**

データサイエンス入門

更新日：2021/05/11 15:46:30

開講年度	2021	学期	後期	シバコード	210020		
学年	1	曜日/時限	—	単位数	1.0	科目コード	210020
担当教員	滝沢 憲一, 姜 興起, 落合 純						
学部/学科	大学 経営情報学部 経営情報学科						
備考	2021年度以降入学生対象						

授業形態

講義と実習

カリキュラム適用年度

2021年度

事前に受講が望ましい科目等

「コンピュータリテラシー入門」、「情報リテラシー」や「経営学の基礎」など

事後に受講が望ましい科目等

授業のテーマ

経営データ分析の基本を学ぶ

授業の目的

データサイエンスのアプローチが広く社会に浸透している現在、データを扱う能力は学生が社会人になったときに基本的な教養となるばかりでなく、深くデータサイエンス関連科目を履修する際に欠かせない基礎となる。本講義の目的は、学生が企業の生産、財務、マーケティング、株式などの事例分析を通して、企業経営に関わるデータの収集・加工・分析および結果の提示・説明の基本的知識・能力を身に付けることである。

授業の到達目標

1	学生が分析対象の経営課題を認識し、分析の目的や意義を理解する。
2	学生が経営データ分析の基本的知識を学び、分析方法を運用できる。
3	学生がデータ分析の基本的スキルを身に付け、分析結果を分かり易く説明できる。

授業の概要・内容（200字程度）

本講義では、office365のエクセルをツールとして、企業経営に関わるデータの収集・加工・分析および結果の提示・説明の基本的な方法を学ぶ。具体的には、実習を交えて、マーケット・シェアの分析、セグメント情報の分析、利益とキャッシュフローの分析、eマーケティングとプロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの基本、株式の分析、企業の安全性と収益性の分析、損益分岐点の分析、資本利益率の要因分析などを事例として学習する。

授業の方法

講義とExcelによる実習を交えて授業を行う。

授業時間外学修（予習・復習等）

授業前には教科書の指定部分や配布資料で予習し、授業後には自主的に実習や復習をする。また、平均的2週間または3週間に1回課題を課す。

評価の方法・基準（評価割合）

総合評価（目安として普段の課題60%、授業への参加態度20%、総合課題20%）

特記事項・資格認定について

履修上の注意・留意事項

授業計画（テーマと内容等）

1	ガイダンス データサイエンス概論、office365のエクセルの概要、授業の内容と計画、評価の方法
2	データの収集、加工と分析の基礎 大型小売店データの収集、前年比増減率の計算、データ可視化の基本
3	マーケット・シェアの分析 マーケット・シェアの概念、シェア変動の要因分析
4	セグメント情報の分析 成長率と寄与度・寄与率の計算、セグメント情報分析の概要、セブン&アイ事業内容の分析
5	ランキングデータの分析 「Forbes」誌のデータ整理、ランキングデータの読み方、人口密度とGDPの関係、企業の売上と国のGDPの関連
6	利益とキャッシュフローの分析 利益と売上高利益率、売上高利益率の計算と可視化、キャッシュフローの分析、営業キャッシュフロー・マージンの計算と可視化
7	eマーケティング入門 ネット通販、ロングテール現象、データ分布とその可視化

8	株価変動の分析 株式、株価、ローソク足チャート
9	企業安全性と収益性の分析 安全性の分析、収益性の分析、キリンとアサヒの事例分析
10	プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント入門 プロダクト・ポートフォリオ・マネジメントの基礎、市場における製品の位置づけ、関連実習
11	損益分岐点の分析 損益分岐点分析の概要、損益分岐点比率、損益分岐点比率の事例分析
12	販売量と価格の経営戦略 自動車メーカーの販売戦略、一人当売上高の要因分解、要因分解結果の可視化
13	総資本利益率の要因分析 総資本回転率、総資本利益率の要因分解、バブルチャートによる財務指標の可視化、乗用車メーカー財務指標の分析
14	指標間の関連性分析 散布図と相関、相関関係の分析方法、相関係数の算出と図示
15	まとめと総合実習 まとめ、総合課題の提示とレポート作成

テキスト1（書名・著者名・出版社名）

阪南大学経営情報学部BD分析研究会編，ビジネスデータ分析入門 office365対応版，三恵社，2017

テキスト2（書名・著者名・出版社名）**テキスト3（書名・著者名・出版社名）****参考書・参考資料・参考URL等****備考****連絡先**

kyo@duck.niigataum.ac.jp

科目に関する実務経験について**アクティブラーニング形式の有無**

なし

情報リテラシー

更新日：2021/03/18 12:58:19

開講年度	2021	学期	前期	シバコード	210000		
学年	1	曜日/時限	一	単位数	2.0	科目コード	210000
担当教員	姜 興起						
学部/学科							
備考	2021年度以降入学生対象						

授業形態

講義

カリキュラム適用年度

1年

事前に受講が望ましい科目等

事後に受講が望ましい科目等

データサイエンス入門

授業のテーマ

データ分析の基本行程を学ぶ

授業の目的

本講義では、新たな課題に対処するために、どのように分析のシナリオを作成するか、データをどのように用いるか、どのように分析するか、分析結果をどのように説明するかなど、データ分析の基本設計を学び、データ活用における問題・課題を自ら考え、分析し、データから課題分析に関する情報の取得力を高める。

授業の到達目標

1	データを処理・分析する素養を身につける。
2	実際データの分析を通して課題分析のシナリオを描ける。
3	学生がデータを処理・分析する素養を身につけること。(2) 学生が実際データの分析を通して課題分析のシナリオを描けること。(3) 学生がデータ分析の基本的プロセスを理解し、分析結果の説明能力を高める。

授業の概要・内容（200字程度）

情報リテラシーは、コンピュータハードウェアとソフトウェアや基本アプリケーションなどの運用能力の他に、データ分析の素養も含む。本講義では、他の関係科目との調和を考え、具体的な課題に対処するためのデータの使用・分析に関する基本的能力の涵養に重点をおく。具体的には、課題分析のシナリオ作り、アルゴリズム作成の基本的考え方、分析過程の想定、データの事前チェックと予備処理、分析方法の選択などの基礎を学び、データ分析の基本的行程を学習する。

授業の方法

講義の上に課外実習を促す課題を課す。

授業時間外学修（予習・復習等）

授業前には教科書の指定部分や配布資料で予習し、授業後には自主的に実習や復習をする。また、授業後随時的に小テストを行うことがあり、平均的2週間に1回レポート課題を課す。

評価の方法・基準（評価割合）

総合評価（目安としてレポート60%、授業への参加態度40%）

特記事項・資格認定について

履修上の注意・留意事項

授業計画（テーマと内容等）

1	ガイダンス データ分析概論、授業の内容と計画、評価の方法など
2	問題の整理 分析ストーリーの可視化、問題領域の設定、評価指標と影響要因の設定
3	アルゴリズムの設定 評価指標や影響要因による問題の定式化、データ分析プロセスの設計、統計計算のフローチャート
4	データのチェックと予備処理 データチェックの必要性、全体データのチェック、部分数値のチェック、データの予備処理
5	代表値を用いた分析 各種代表値の出し方、意味と使い方

6	クロス集計による分析 クロス集計のやり方、集計結果の使い方
7	ケース学習 新商品配置の事例分析
8	標準偏差の使い方(1) 標準偏差の定義と意味
9	標準偏差の使い方(2) 標準偏差の計算
10	標準偏差の使い方(3) 標準偏差の応用
11	グループ間の格差(1) 平均で見たグループ間の格差
12	グループ間の格差(2) 大小関係の判断における危険率、大小関係の確実性
13	分析結果の解釈 結果の解釈と留意点
14	分析結果の表現 結果の表現と留意点
15	まとめ まとめ、総合演習

テキスト1（書名・著者名・出版社名）

河村真一他著，本物のデータ分析力が身に付く本，日経BP，2016

テキスト2（書名・著者名・出版社名）

テキスト3（書名・著者名・出版社名）

参考書・参考資料・参考URL等

備考

連絡先

kyo@duck.niigataum.ac.jp

科目に関する実務経験について

アクティブラーニング形式の有無

人工知能論

更新日：2022/01/24 08:01:29

開講年度	2021	学期	後期	シバコード	20103		
学年	1	曜日/時限	—	単位数	2.0	科目コード	201030
担当教員	横山 泰						
学部/学科							
備考							

授業形態

予習・復習課題などの事前課題の自己採点によるアクティブラーニングを取り入れた座学の一斉授業。
※面接授業を原則とするが、適宜、リモートやオンデマンドに対応したハイブリッド型で行う場合もある。

カリキュラム適用年度

2021年度、2020年度

事前に受講が望ましい科目等

情報リテラシーまたは情報リテラシーⅠ

事後に受講が望ましい科目等

経営情報システム論、データマイニング論、ビッグデータ分析論、防災と情報

授業のテーマ

AIとは？
AIと人間の違いとは？
人間の仕事はAIに奪われるのか？
AI時代に私たちは何を学べばよいのか？

授業の目的

第4次産業革命の中心的な技術のひとつである人工知能について、その位置づけと意義を理解し、人工知能の概念、歴史、機械学習、知識表現、推論、深層学習などの基礎知識を修得し、日常生活や今後の学習活動に適用できるようになること。

授業の到達目標

1	人工知能の概念を正しく理解して修得し、簡潔な文脈のなかで表現することで日常的な活動に適用できる。
2	人工知能の特性を正しく理解して修得し、人間の社会的活動に適用できる。
3	人間の知性の働きについて基礎的な理論を修得し、簡潔な文脈のなかで表現できる。
4	知識と推論について基本的な考え方を修得し、日常生活や学習活動に適用できる。
5	人工知能を実現している基礎的技術を理解し、その基本を修得して、生産的な活動に応用できる。

授業の概要・内容（200字程度）

人工知能（Artificial Intelligence, AI）の概念には、大きく分けて“知能としてのAI”と“技術としてのAI”の2つがある。“知能”というものの定義は明確でないし、人間の知能の仕組みも未だに完全には解明されていないため、人間の知能を完全に人工的に再現することは現時点ではできていない。一方で、近年、“技術としてのAI”が第3次AIブーム、第4次産業革命を起こすといわれている。
本講義では、そのような概念や社会的変遷について整理するとともに、人工知能の歴史、基礎技術、人間の脳の構造、知識表現と推論など、人工知能論を広範囲に取り上げ、社会的な素養としてのAIに関するリテラシーの必要性について論じる。

授業の方法

形式：講義室における面接形式の一斉授業を原則とするが、適宜、リモートやオンデマンドに対応したハイブリッド型で行う場合もある。
学習方法：講義プリントの穴埋め、講義課題の解答、講義、web教材を用いた学習、動画コンテンツの聴講

授業時間外学修（予習・復習等）

予習方法：テキストの読解と予習課題の解答、web教材の学習、動画コンテンツの視聴
復習方法：テキストの読解、講義プリントの読み返し、復習課題の解答、web教材の学習

評価の方法・基準（評価割合）

《評価の方法》
講義課題、研究課題、ブレ期末試験、期末試験などを総合的に評価する。
《評価の割合》
講義課題（15％）、研究課題（25％）、試験（60％）※配点は平均点などによって適宜調整する
《評価の基準》
評価S(90～100点) 到達目標の内容をほぼ完全に修得し、かつ経営に応用する力がついていると認められる。
評価A(80～89点) 到達目標の内容を十分に理解し修得したものと認められる。
評価B(70～79点) 到達目標の基幹部分は理解し修得したものと認められる。
評価C(60～69点) 到達目標のうち、最低限の理解は得られたものと認められる。
評価F(0～59点) 当該科目の到達目標に及ばない。

特記事項・資格認定について

特になし

履修上の注意・留意事項

プリントを配布するので、履修者各自でプリント収集用のA4ファイルを用意することが望ましい。
 Google classroomシステムを活用するので、各自のパソコンやスマートフォンから大学のアカウントでのログインができるようにしておく必要がある。classroom参加用コードは、履修登録後にwebポータルを通じて登録者に配布する予定である。
 毎回出される課題の学習を含め、予習90分・復習90分の学習を必ず行うこと。

授業計画（テーマと内容等）

1	第4次産業革命におけるAI なぜ人工知能について論じるのか？ 予習：シラバス、およびテキストの「はじめに」「目次」を通読しておこう。
2	人工知能とは AIとは知能か技能か？ 予習：「AIとは？ AIとは知能か技能か？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【2、260、261、262（部分）】ページ
3	人工知能の歴史 第3次AIブームとは何なのか？ 予習：「第3次AIブームとは何なのか？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【22～25】ページ
4	人間中心のAI社会原則 AI-Readyな社会とは？ 予習：いまわたちがAIを受け入れる目的について「人間とAIの違いとは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【2～39、259～266】ページ
5	機械学習 「学習とは？」（人間と機械学習の両方） 予習：「学習方法の違いとは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。【49～60】ページ
6	知識の表現 無知の知とは？ 問題解決のための思考とは？ 「鶴の恩返し」の感想」を帰納的学習により生成せよ。 予習：「知識の表現方法とは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。【82～85】ページ
7	知識と推論 知らないことまで考えるとは？ 予習：「推論とは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【82～85】ページ
8	生物のニューラルネットワーク 人間の脳の仕組みとは？ 予習：「生物における神経回路と人工ニューラルネットワークの相違（同じ点、異なる点）とは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【100～102】ページ
9	人工ニューラルネットワーク 階層型ニューラルネットワークの構造とは？ 予習：「ニューラルネットワークの基本構造とは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【102～107】ページ
10	深層学習 ※ブレ期末テストの解説を実施 なぜ「あなたにおすすめ」なのか？ 予習：「深層学習（Deep Learning）とは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【122～123】ページ
11	エージェントとロボット ※ブレ期末テスト実施予定 私たちにとってロボットとは何なのか？ 予習：「ロボットとは？」という視点でテキストの以下のページを学習しよう。 【212～222】ページ
12	人工知能とゲーム 人間と人工知能はどちらが強いのか？ なぜ、ゲームがより良い世界を築くのか？ 予習：「ゲームは何のためのものか？」という視点でテキストの以下のページを予学習しよう。 【251】ページ
13	生物社会と群知能 アリから学ぶ！？ 人間の仕事、AIの仕事とは？ 予習：「人間に求められる仕事とは？」「AIにも求められる仕事とは？」という論点でこれまでの講義、テキストをまとめておこう。
14	人間社会と人工知能 AIは人間の仕事を奪うのか？ 予習：「AIは我々の仕事を奪うのか？」について、自分の意見をまとめておいてください。授業開始時に発表して答えてもらいます。
15	AIと労働 人間に求められる労働とは？ 予習：「人間に求められる労働とは？」について、自分の意見をまとめておいてください。授業開始時に発表して答えてもらいます。

テキスト1（書名・著者名・出版社名）

基礎から学ぶ人工知能の教科書・小高知宏・オーム社（2019年発行）

テキスト2（書名・著者名・出版社名）

テキスト3（書名・著者名・出版社名）

参考書・参考資料・参考URL等

- ・IT人材白書2019年度概要版（アクセス最終確認日2020年3月27日）
<https://www.ipa.go.jp/files/000073565.pdf>
- ・令和元年度年次経済財政報告―「令和」新時代の日本経済―（令和元年7月23日）（アクセス最終確認日2020年3月27日）
<https://www5.cao.go.jp/j-j/wp/wp-je19/19.html>
- ・人間中心のAI社会原則（平成31年3月29日統合イノベーション戦略推進会議決定）（アクセス最終確認日2020年3月27日）
<https://www8.cao.go.jp/cstp/aigensoku.pdf>

備考

特になし

連絡先

h-yokoyama@duck.niigataum.ac.jp

科目に関する実務経験について

特になし

アクティブラーニング形式の有無

「有り」
明確な問題提起による課題解決型学習（PBL: Problem Based Learning）で実施される学習スタイルです。テーマの理解とテキストの学習は、予習で行うことが前提となりますので、ご注意ください。

2021年度経営情報学科カリキュラム

学修の目的		基礎を固める		専門領域を深める		実践力を高める		学びの総まとめ		種別	卒業要件単位		
大区分	小区分	1年次		2年次		3年次		4年次					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
学科共通必修科目	基礎科目	経営学の基礎 経済学の基礎 情報リテラシー 簿記会計Ⅰ（基礎） ジェネラル・イングリッシュⅠ（初級）	人工知能論 ジェネラル・イングリッシュⅡ（中級）	ビジネス法Ⅰ（3級） コミュニケーション・イングリッシュⅠ（初級）	コミュニケーション・イングリッシュⅡ（中級）					必修	20単位		
	実習科目	コンピュータリテラシー入門 スポーツ&レジャー	データサイエンス入門							必修	4単位		
	キャリア科目			キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ				必修	4単位		
	演習科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	演習Ⅰ		演習Ⅱ		演習Ⅲ		必修	16単位		
学科共通選択必修科目	語学	中国語 初級Ⅰ 韓国語 初級Ⅰ ロシア語 初級Ⅰ	中国語 初級Ⅱ 韓国語 初級Ⅱ ロシア語 初級Ⅱ							選択必修	同一語学で継続して4単位		
	専門	簿記会計Ⅱ（日商3級） スポーツ産業論 観光経営入門	経営情報Ⅰ（ストラテジ）							選択必修	4科目の中から1科目（2単位）を選択		
学科共通実践科目	実践科目	海外語学研修（繰返し履修可能） 経営学実地研究（繰返し履修可能）											
専門科目	経営分野			経営学総論 アントレプレナー論 イノベーション論 企業論 経営戦略論 生産管理論 中小企業論 経営組織論 アジアビジネス論 経営管理論 人的資源管理論 経営史 ビジネスプランニング マーケティング論 経営トップセミナー（繰返し履修可能）								選択	60単位以上
	商業分野			流通論 リテールマーケティングⅢ（2級） 商品開発 リテールマーケティングⅣ（2級） リテールマーケティングⅠ（3級） リテールマーケティングⅡ（3級）									
	会計分野			コンピュータ会計 簿記応用演習（日商2級） 財務会計 ファイナンシャルブラインニング 簿記特講Ⅰ（日商1級商・会） 原価計算論 財務分析論 簿記特講Ⅱ（日商1級商・会） 管理会計論 財務管理論 簿記特講Ⅲ（日商1級工・原） 監査論 英文会計 簿記特講Ⅳ（日商1級工・原）									
	情報システム分野			経営情報Ⅱ（マネジメント） プログラミング（C言語応用） 経営情報Ⅲ（テクノロジー） ダイナミックWeb 情報と職業 システム開発 情報ネットワーク論 プログラミング（C言語基礎） 情報セキュリティ	システム設計 経営情報システム論 データベース								
	データサイエンス分野			プログラミング（python） 社会調査概説 社会調査方法論 線形代数 統計学の基礎 経営統計学	消費者調査論 社会調査分析 データマイニング論 ビッグデータ分析論 情報化リーダー								
	英語分野			ベーシック・イングリッシュⅠ（初級） ベーシック・イングリッシュⅡ（中級） 英語学Ⅰ 英語学Ⅱ ビジネスイングリッシュⅠ（初級） ビジネスイングリッシュⅡ（中級） ディベート パブリックスピーキング 英語資格試験（繰り返し履修可能） 英語科教育法Ⅰ（入門） 英語科教育法Ⅱ（初級） 英語科教育法Ⅲ（中級） 英語科教育法Ⅳ（上級） 短期留学 長期留学 アドバンスト・イングリッシュⅠ（初級） アドバンスト・イングリッシュⅡ（中級）									
	国際分野			英語文学Ⅰ 英語文学Ⅱ イギリス文化論 SDGsファシリテーションⅠ（初級） SDGsファシリテーションⅡ（中級）アメリカ文化論 国際関係論 異文化コミュニケーション ツーリズムイングリッシュⅠ（初級） ツーリズムイングリッシュⅡ（中級） 中国語 中級Ⅰ 中国語 中級Ⅱ 韓国語 中級Ⅰ 韓国語 中級Ⅱ ロシア語 中級Ⅰ ロシア語 中級Ⅱ 中国語 上級Ⅰ 中国語 上級Ⅱ 韓国語 上級Ⅰ 韓国語 上級Ⅱ ロシア語 上級Ⅰ ロシア語 上級Ⅱ									
	経済分野			経済学原論Ⅰ（マクロ） アジア経済論 経済学原論Ⅱ（ミクロ） 経済史 経済政策論 国際経済論 金融論 日本経済論									
	法律分野			ビジネス法Ⅱ（3級） 労働法 租税法Ⅰ（税法概論） 民法Ⅰ（財産法） 金融商品取引法 租税法Ⅱ（所得税法・消費税法） 民法Ⅱ（家族法） 知的財産法 租税法Ⅲ（法人税法） 会社法 国際取引法 消費者法 宅建業法 旅行業法									
	観光・地域創生分野			観光経営総論 旅行ビジネス論 エリアマネジメント 地域創造論 農村環境論 農業ビジネス論 宿泊産業論 観光地経営論 ニューツーリズム論 観光経営実習（繰り返し履修可能）旅行実務演習 地場産業論Ⅰ（基礎理論） 地場産業論Ⅱ（実証研究） 観光・地域創生実地研究									
スポーツ関連分野			スポーツマーケティング論 スポーツマネジメント論 スポーツ社会学 スポーツコミュニケーション論 地域スポーツ運営実習 プロスポーツ運営実習 商業スポーツ経営実習 観戦者調査論				スポーツ市場調査（繰り返し履修可能(2回まで)） スポーツイベント論 スポーツマーケティング演習 スポーツコミュニケーション演習（繰り返し履修可能(2回まで)）						
教養科目	一般教養科目	現代文化論 宗教学 哲学・倫理学 法学 政治学 現代社会と福祉 日本国憲法 日本史 外国史 文化芸術史 思想史 地理学（国内） 地理学（海外） 秘書概論 職業指導 都市開発論 世界遺産論 産業政策論 教養の文学Ⅰ（小説と思想） 教養の文学Ⅱ（経営者と思想） 教養の文章理解Ⅰ（経済と社会） 教養の文章理解Ⅱ（人工知能と社会） 教養の古典Ⅰ（飛鳥の『万葉集』） 教養の古典Ⅱ（奈良の『万葉集』） 教養の外書講読Ⅰ（現代英語の諸相） 教養の外書講読Ⅱ（ウェブサイトの英語） 教養の数学 教養の自然科学 防災と情報 アウトドアスポーツ（繰り返し履修可能） 心理学 音楽表現 社会学 ボランティア（繰り返し履修可能） インターンシップ									選択	14単位以上	

2021年度スポーツマネジメント学科カリキュラム												種別	卒業要件単位						
学修の目的		基礎を固める				専門領域を深める				実践力を高める				学びの総まとめ					
		1年次		2年次		3年次		4年次		前期				後期					
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
学科共通必修科目	経営情報学科目	経営	経営学の基礎 簿記会計Ⅰ（基礎）													必修	4単位		
		情報	情報リテラシー コンピュータリテラシー入門	データサイエンス入門												必修	4単位		
		英語	英語Ⅰ	英語Ⅱ												必修	2単位		
		キャリア			キャリアデザインⅠ			キャリアデザインⅡ							必修	4単位			
	スポーツマネジメント科目	講義	スポーツ産業論 人々の娯楽とスポーツⅠ	人体の解剖と生理学Ⅱ 発熱処理	スポーツマネジメント論	スポーツマーケティング論									必修	12単位			
	ゼミ	基礎実習Ⅰ レジャー・レクリエーション実習Ⅰ				基礎実習Ⅱ レジャー・レクリエーション実習Ⅱ				専門実習Ⅰ				専門実習Ⅱ				必修	18単位
スポーツマネジメント科目	トリアス ホメオ シスⅠ					スポーツマネジメント実習 スポーツマーケティングリサーチ（2回まで繰り返し履修可） スポーツ社会学 スポーツ開発論 スポーツ政策論 学校体育経営論 学校体育カリキュラム論	スポーツマーケティング実習 スポーツクラブビジネス論 スポーツ統計学 スポーツ法制論								選択必修	32単位以上			
	シミュ レー シ ョ ン		メディアスポーツ実習（繰り返し履修可） スポーツ表現法（繰り返し履修可） スポーツ時事英語（繰り返し履修可） 海外スポーツ事情（繰り返し履修可）	スポーツコミュニケーション論 スポーツコミュニケーション実習（繰り返し履修可） メディアスポーツ論															
	学 ス 分 野 科 Ⅰ		ストレンクス&コンディショニング入門 ストレンクス&コンディショニングエクササイズⅠ アスレチックトレーニング入門	運動生理学 骨格筋の解剖学 スポーツ栄養学 スポーツ心理学 ストレンクス&コンディショニングの理論 ストレンクス&コンディショニングエクササイズⅡ ストレンクス&コンディショニング実習Ⅰ スポーツ実習・外編Ⅱ（下級）				スポーツ医学 スポーツ栄養学実習Ⅰ スポーツ栄養学実習Ⅱ スポーツカウンセリング スポーツメンタルトレーニング ストレンクス&コンディショニング実習Ⅱ アスレチックトレーニング実習Ⅰ（下 級） アスレチックトレーニング実習Ⅱ（上級） スポーツ実習・外編Ⅱ（上級）											
	ホメ オ シ ス Ⅱ			スポーツ指導論 スポーツ指導法研究Ⅰ サッカー戦術論 バスケットボール戦術論 体操競技戦術論 スポーツ戦術研究Ⅰ				スポーツ指導法研究Ⅱ スポーツ指導法研究Ⅲ スポーツバイオメカニクス スポーツバイオメカニクス実習Ⅰ スポーツバイオメカニクス実習Ⅱ スポーツ戦術研究Ⅱ スポーツ戦術研究Ⅲ				スポーツ指導法研究Ⅳ スポーツ戦術研究Ⅳ							
	実 習			プロ・スポーツ産業実習（繰り返し履修可） スポーツ基幹科学実習（繰り返し履修可） 地域スポーツ運営実習（繰り返し履修可） 少年スポーツ指導実習（繰り返し履修可） 商業スポーツ経営実習（繰り返し履修可）															
	実 技		アウトドアスポーツ（繰り返し履修可能） サッカーⅠ ソフトボールⅠ テニスⅠ バスケットボールⅠ 卓球Ⅰ バドミントンⅠ ボディメイクエクササイズ（繰り返し履修可） ピラティス（繰り返し履修可） ダンス（2回まで繰り返し履修可） 水泳Ⅱ（2回まで繰り返し履修可） 海外語学研修（繰り返し履修可能） 経営学実地研究（繰り返し履修可能）	アウトドアスポーツ（繰り返し履修可能） サッカーⅡ ソフトボールⅡ テニスⅡ ソフトボールⅡ テニスⅡ バスケットボールⅡ 卓球Ⅱ バレーボールⅡ バドミントンⅡ															
	実践科目																		
	経営分野			経営学総論 経営管理論 企業論 経営史 アントレプレナー論 経営戦略論 経営組織論 人的資源管理論 マーケティング論 イノベーション論 生産管理論 アジビジネス論 中小企業論 経営トップセミナー（繰り返し履修可） ビジネスプランニング															
	商業分野			商品開発 流通論 リテールマーケティングⅠ（3級） リテールマーケティングⅡ（3級） リテールマーケティングⅢ（2級） リテールマーケティングⅣ（2級）															
	会計分野		簿記会計Ⅱ（日商3級）	財務会計 原価計算論 管理会計論 監査論 コンピュータ会計 ファイナンシャルプランニング 財務分析論 財務管理論 英文会計 簿記応用実習（日商2級） 簿記特講Ⅰ（日商1級・全） 簿記特講Ⅱ（日商1級・全） 簿記特講Ⅲ（日商1級工・専） 簿記特講Ⅳ（日商1級工・専）															
	情報システム分野	人工知能論	経営情報Ⅰ（ストラテジ）	経営情報Ⅱ（テクノロジ） 情報と組織 プログラミング（C言語基礎） プログラミング（C言語応用） ダイナミックWeb システム開発 情報ネットワーク論 情報セキュリティ				システム設計 データベース 経営情報システム論											
データサイエンス分野			プログラミング（python） 社会調査概説 社会調査方法論 線形代数 統計学の基礎 経営統計学				消費者調査論 社会調査分析 データマイニング論 ビッグデータ分析論 情報化リテラシー												
英語分野	ジェネラル・イングリッシュⅠ（初級）	ジェネラル・イングリッシュⅡ（中級）	コミュニケーション・イングリッシュⅠ（初級） コミュニケーション・イングリッシュⅡ（中級） ベーシック・イングリッシュⅠ（初級） ベーシック・イングリッシュⅡ（中級） ビジネスイングリッシュⅠ（初級） ビジネスイングリッシュⅡ（中級） アドバンスト・イングリッシュⅠ（初級） アドバンスト・イングリッシュⅡ（中級） ディベート パブリックスピーキング 英語資格試験（繰り返し履修可） 英語学Ⅰ 英語学Ⅱ 英語科教育法Ⅰ（入門） 英語科教育法Ⅱ（中級） 英語科教育法Ⅲ（上級） 短期留学 長期留学																
国際分野			英語文学Ⅰ 英語文学Ⅱ イギリス文化論 SDGsファシリテーションⅠ（初級） SDGsファシリテーションⅡ（中級） アメリカ文化論 国際関係論 異文化コミュニケーション フォーリズムイングリッシュⅠ（初級） フォーリズムイングリッシュⅡ（中級）																
経済分野	経済学の基礎		経済学原論Ⅰ（マクロ） 経済学原論Ⅱ（ミクロ） 経済政策論 金融論 日本経済論 アジア経済論 経済史 国際経済論																
法律分野			ビジネス法Ⅰ（3級） ビジネス法Ⅱ（3級） 民法Ⅰ（財産法） 民法Ⅱ（家継法） 会社法 消費税法 労働法 金融商品取引法 知的財産法 国際取引法 銀行業法 宅建業法 相続法Ⅰ（税法概論） 相続法Ⅱ（所得税法・消費税法） 相続法Ⅲ（法人税法）																
観光・地域創生分野	観光経営入門		観光経営総論 旅行ビジネス論 エリアマネジメント 地域創造論 農村環境論 農業ビジネス論 宿泊産業論 観光地経営論 ニューツーリズム論 観光経営実習（繰り返し履修可） 旅行実務実習 地場産業論Ⅰ（基礎理論） 地場産業論Ⅱ（実証研究） 観光・地域創生実地研究																
教養科目	外国語科目	英会話Ⅰ 中国語 初級Ⅰ 韓国語 初級Ⅰ ロシア語 初級Ⅰ	英会話Ⅱ 中国語 初級Ⅱ 韓国語 初級Ⅱ ロシア語 初級Ⅱ	英会話Ⅲ 中国語 中級Ⅰ 中国語 上級Ⅰ 韓国語 中級Ⅰ 韓国語 上級Ⅰ ロシア語 中級Ⅰ ロシア語 上級Ⅰ	英会話Ⅳ 中国語 中級Ⅱ 中国語 上級Ⅱ 韓国語 中級Ⅱ 韓国語 上級Ⅱ ロシア語 中級Ⅱ ロシア語 上級Ⅱ									選択	4単位以上（1言語で継続して4単位）				
	一般教養科目	現代文化論 宗教学 哲学・倫理学 法学 政治学 現代社会と福祉 日本国憲法 日本文学 外国史 文化芸術史 思想史 地理学（国内） 地理学（海外） 経営概論 経営倫理 都市開発論 世界遺産論 産業政策論 教養の文学Ⅰ（小説と思想） 教養の文学Ⅱ（経営者と思想） 教養の文章読解Ⅰ（経済と社会） 教養の文章読解Ⅱ（人工知能と社会） 教養の古典Ⅰ（古典の『万葉集』） 教養の古典Ⅱ（古典の『万葉集』） 教養の外書読解Ⅰ（現代英語の語源） 教養の外書読解Ⅱ（ウェブサイトの英語） 教養の数学 教養の自然科学 防災と情報 心理学 音楽表現 社会学 ボランティア（繰り返し履修可能） インターンシップ										選択	14単位以上						
自由選択科目												全ての区分の未履修科目を自由に選択必修				選択必修	16単位以上		

新潟経営大学教務委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、教務委員会（以下「委員会」という。）の任務、委員及び審議事項を定めるとともに、円滑で効率的な運営のために必要な事項を定めることを目的とする。

(任務)

第2条 委員会は、学生の教育に関するカリキュラムおよび教育全般の管理・運営を所管し、よりよい教育環境をつくることを任務とする。

(委員編成)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 教授会において選出された委員（以下「委員」という。）5名以上
- (2) 教務部長
- (3) 学務課員1名以上

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) カリキュラム並びに教育課程に関すること。
- (2) 授業並びに試験に関すること。
- (3) 単位の認定に関すること。
- (4) 学籍の異動に関すること。
- (5) 学生の修学および資格取得の指導に関すること。
- (6) 学年暦に関すること。
- (7) 簿記学習センターおよび公務員学習センターの管理・運営に関すること。
- (8) スポーツ施設の管理に関すること。
- (9) FDに関すること（他の委員会の審議事項に係るものを除く。）。
- (10) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の教育プログラムを管理・運営し、改善・進化させるために必要な業務に関すること。
- (11) その他、教務に関すること。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、学務課においてこれを行う。

(細則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会がこれを定める。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。なお、平成18年4月1日の本規程の制定をもって「新潟経営大学カリキュラム検討委員会規程」は廃止とする。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月21日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年5月19日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年5月17日から施行する。

新潟経営大学総務・企画委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、総務・企画委員会（以下「委員会」という。）の任務、委員及び審議事項を定めるとともに、円滑で効率的な運営のために必要な事項を定めることを目的とする。

(任務)

第2条 委員会は、他の委員会の所管に属さない事項に関する校務について審議し、各委員会の審議事項について総合的な調整を図り、もって校務の円滑な遂行に資することを任務とする。

(委員編成)

第3条 委員会は、次の委員をもって組織する。

- (1) 学部長
- (2) 教務部長
- (3) 学生部長
- (4) 学部長が指定する委員会の委員長
- (5) 事務長
- (6) 総務課長
- (7) その他の課長のうち学部長が指定する者

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 校務の総合調整に関すること。
- (2) 自己点検・評価に関すること。
- (3) 科学研究費補助金の管理に関すること。
- (4) 高等教育コンソーシアムに関すること。
- (5) 他の委員会の所管に属さない事項に関すること。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、企画財務課においてこれを行う。

(細則)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会がこれを定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月2日から施行する。
- 2 新潟経営大学自己点検・評価委員会規程及び新潟経営大学教育・研究推進委員会規程は廃止する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月21日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年6月16日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月3日から施行し、同年4月1日から適用する。

NUMデータサイエンス教育プログラム取組概要

プログラムの目的

Society 5.0を生きる未来の地域活性化人材を育成する高等教育機関となるべく、広く数理・データサイエンス・AI教育の機会を提供するため。

プログラムの取り組み内容

《構成科目》

人工知能論(2単位)

情報リテラシー(2単位)

データサイエンス入門(1単位)

コンピュータリテラシー入門(1単位)

《修了要件》

上記4科目6単位を修得すること。

※学部・学科を問わず共通とする。

《令和3年度実績》

上記4科目すべての修得者は、当該学年の在籍者に対して、85%(対収容定員で11%)であった。

《令和4年度以降の履修率目標(対収容定員)》



プログラムの点検・評価

《担当部署》

新潟経営大学 総務・企画委員会

《業務内容》

教育課程に関する業務及び成果を点検・評価し、教育課程の改善に必要な課題を明確化させるなど、プログラムの充実に必要な業務が行われている。

プログラムの改善・支援

《担当部署》

新潟経営大学 教務委員会

《業務内容》

数理・データサイエンス・AI教育プログラム等の教育プログラムなど、教育課程に関する事項を審議し、教育課程を全学的に普及、周知させるなどの他教務に必要な業務全般が行われている。

地域・社会との連携(地域DX)

《担当部署》

新潟経営大学 地域活性化研究所

《業務内容》

地域に数理・データサイエンス・AI教育の機会を広く提供することで、地域におけるDX人材育成の拠点となる高等教育機関となっていくことを目指している。

NUMデータサイエンス教育プログラム補足資料

カリキュラムマップ

	専門基礎科目	実践科目
1年次後期	人工知能論(2単位) 経営情報学科:必修科目 スポーツマネジメント学科:選択科目	データサイエンス入門(1単位) 経営情報学科:必修科目 スポーツマネジメント学科:必修科目
1年次前期	情報リテラシー(2単位) 経営情報学科:必修科目 スポーツマネジメント学科:選択科目	コンピュータリテラシー入門(1単位) 経営情報学科:必修科目 スポーツマネジメント学科:必修科目

公開講座(地域DX)

講座タイトル

DXの基本の「キ」 ～いまさらきけないデジタル入門～

□開催日時

4月27日(水) 18:30~19:30

□ジャンル

社会・経済

□講座内容

DXとは、単なるデジタル化ではなく、デジタル技術を活用した社会の変革を意味しています。扱いにくいデジタル化をすすめる時代は去り、今後、わたしたちの社会ですんでいくDXは、人に優しく、生活をやすくするものです。この講座では、さまざまな組織が直面している、コミュニケーションやビジネスについて「正しいDX」をおすすめするために「リテラシー」をキーワードとして、やさしく論じていきます。



講師名: 横山 孝
所属学科: 経営情報学科
准教授
専門分野: 情報経営学
科学教育学
修士(工学)
(新潟大学)

プログラム推進体制イメージ

